

長良川市民学習会 「長良川下流域・ヨシ原環境観察会」報告

好天の5月25日、元長良川下流域生物相調査団の千藤克彦さんを講師に木曾川、長良川、揖斐川の下流域で昨年に引き続き二度目の観察会を行いました。「湿地のグリーンウェーブ2013」の参加イベントでもあります。参加者は9名。

木曾川右岸・木曾三川公園（河口から約14km）

千本松原のすぐ東、木曾川右岸の川辺で観察。ここはかなり大きなワンド（湾処）になったところで、長良川では今では見られなくなったサンカクイ、マコモなどの多様な植物が見られました。干潟にはカニ穴もたくさんあり、魚類など水性生物の大切な棲み処になっていると思われました。オオヨシキリのギギョシ！ギギョシ！というぎやかな鳴き声も聞かれ、美しい水辺の風景が広がっていました。



揖斐川・長良川（河口から約9.5km）

川中堤防をはさんだ同じ地点で、それぞれ5分間、参加者全員でカニを採集しました。揖斐川はヨシ原が広がり足下は柔かい湿地で、数ミリの採りにくい位の小さいカニから4~5センチの大きなものまで次々見つかりました。大小35匹のクロベンケイガニ、ベンケイガニ（赤い）を採集。長良川は堤防道路から水辺近くまで草地になっており、植生もヨシに似たオギやノイバラ、上流部でも見られるオニグルミなどが増えています。水際に僅かに残ったヨシの根元でかなり大きな4~5センチのカニを4匹採集することができました。昨年は1匹だったとのこと。千藤先生の解説では、長良川の大きなカニは揖斐川から移動したものではないとのこと。カニは6月頃水辺で産卵し、その幼生が引き潮に乗って海域に達し、そこで成長し、上げ潮にのって河川感潮域に着底するため、潮の流れが堰で遮断されている長良川では生育できません。しかし、堰を開ければかつての長良川のように、現在の揖斐川のように、カニをはじめとした底生生物がよみがえり、悪化した水質も浄化されるのではないのでしょうか。



長良川



揖斐川

長良川右岸（河口から約6.5km）

かつてこの辺りには下流域最大のヨシ原が広がっていましたが今では9割以上が消失しています。水位が上がったままの長良川は大きな池のようです。写真は国土交通省・水資源機構によるヨシ植栽造成中州ですが、樹木が茂る州になっています。その向こうにかすかに存在するのがかつて広大に広がったヨシ原群落の



名残です。現在では根元が洗われ今にも倒れそうな状態で点状に数株が残るのみです。今までがんばってきたこのヨシが消失する前に、ぜひ堰を開放してほしいと願いました。

長良川河口堰（河口から5.4km）

5月11日の観察会ではゲート直下流は黄色っぽい白色の泡で覆われていました。2週間後の今回は、一部のゲート下では観察されましたが、11日のような風景は見られませんでした。水資源機構の発表によれば、11日はゲートの上から水を落とすオーバーフロー操作が1から10号の全ゲートで行われ、フラッシュ操作も実施されていました。今回はオーバーフロー操作は半分のゲートで行い、フラッシュ操作は行われていなかったようです。

参照 ☆ 長良川河口堰の管理状況（5月6日～12日、20日～26日）

http://www.water.go.jp/chubu/nagara/26_kisya/h25/kisya_20130515.pdf

- ・ 5月9日～11日 伊勢大橋での最大値は測定限界（60 $\mu\text{g}/\text{l}$ ）を超えていた。
- ・ 特に5月10日は、最小値も60 $\mu\text{g}/\text{l}$ 超。・ 5月9日、10日には、クロロフィルa値改善のためにオーバーフラッシュ操作を行った、とある。

今回気がついたことなど

水質浄化に大きな役割を果たすと言われている川底や干潟に棲むゴカイ、イトメ、カニなど底生生物を私たちはなかなか目にする機会がありません。しかし今回の短い時間の簡単な方法による観察でも、汽水域のある木曾川、揖斐川と、汽水域が消滅した長良川の違いは顕著でした。



5月11日の観察会で見た河口堰下流の光景

植生も木曾川、揖斐川と比べ長良川では河口堰建設前の状態とは大きく変化していることが分かりました。この観察会の後で、千藤先生も参加された長良川下流域生物相調査団による「長良川下流域生物相・調査報告書2010・河口堰運用15年後の長良川」を改めて読み、長良川の変化をデータで詳しくきちんと知ることができました。研究者や市民50人以上により1990年に結成されたこの調査団は20年にわたって地道に調査を継続し、その成果を2010年に出版しました。報告書は長良川市民学習会のHPのリンクから入って読むことができます。ご一読下さい。（<http://dousui.org/seibutsu/index.html>）

今回、ヨシ原に入ってみて驚いたことはゴミの多さです。外からは見にくいのですが、ヨシの根元は自動車のタイヤなど粗大ゴミやペットボトルなどが一杯の“ゴミ原”でした。

揖斐川では椅子に腰掛け釣りを楽しむ釣り人を見かけましたが、長良川では水上バイクや水上スキー、と川のレジャーの風景も対照的でした。

この日は11時～12時頃の潮位が最も低く、三川公園近くの木曾川では川の中に大きな中州が出現していて、貝拾いを楽しむ人達をたくさん見かけました。ちょうど長良川のマウンドのあった辺りです。長良川ではマウンドの土砂は浚渫され消失していますが、ここを見ればかつての長良川のマウンドの様子を知ることができるのではないかと思います。新しい発見でした。

（報告：田中万寿）